



©Seichi Horiuchi
『ぐるんぱのようちえん』1965年
『たろうのおでかけ』1963年
『こすずめのぼうけん』1976年
すべて部分

堀内誠一

Seichi Horiuchi 絵の世界

2022年3月19日(土) ▶ 7月25日(月)

ベルナール・ビュフェ美術館

休館日：水曜日・木曜日（ただし3月24日・31日、5月4日・5日は開館）

開館時間：10:00-17:00（入館は閉館の30分前まで）

入館料：大人1,000円(900円)/高・大学生500円(400円)/中学生以下無料

()内は20名様以上の団体割引料金

主催：ベルナール・ビュフェ美術館 特別協力：堀内事務所

協力：福音館書店/マガジンハウス 企画協力：アートキッチン

後援：静岡県教育委員会/長泉町教育委員会/清水町教育委員会/

裾野市教育委員会/沼津市教育委員会/三島市教育委員会/

静岡新聞社・静岡放送



堀内誠一

絵の世界

展覧会概要

本展は、伝説のアートディレクターであり、デザイナーであり、絵本作家でもあった堀内誠一の「絵の世界」に注目します。今回、初公開となる10代の時に描いた油絵作品などを出発点に、絵本の原画、デザインにおける作画、雑誌のためのカットなど、堀内の創作の原点ともいえる「描くこと」をひもときます。ときに愛らしく、ときに鋭くアヴァンギャルドな堀内誠一の絵の世界をどうぞお楽しみください。

1932年、東京に生まれた堀内誠一は、若い頃よりデザイナーとして研鑽を積み、時代をリードするアートディレクターとして活躍しました。そして「anan」、「BRUTUS」、「Olive」、「たくさんのふしぎ」など、よく知られた雑誌のロゴや、本の装丁、ポスターのデザインなど多彩な仕事を展開しました。その一方で、1958年に初めての絵本『くろうまブランキー』を世に出します。その後も『ぐるんぱのようちえん』や『たろうのおでかけ』、『こすずめのぼうけん』など数多くの人気絵本を生み出しました。「絵本作家の道こそ運命が決めた本命」と本人が語ったように、その54年の人生は、絵を描くことと共にありました。

2022年、生誕90年を迎えることを記念して、その画業全般を回顧する展覧会を開催いたします。戦後、激動する社会の中で、「絵」というヴィジュアルが持つ力を、広告やデザイン、イラストなど様々な分野で発揮させた堀内。その作品世界を見つめれば、20世紀という時代において、絵本や雑誌といったカルチャーがいかに変遷し、発展を遂げてきたかも浮き彫りになることでしょう。

堀内誠一
(ほりうち せいいち)



写真提供：堀内事務所

1932年、東京生まれ。デザイナー、アートディレクター、絵本作家。雑誌作りにおけるエディトリアルデザインの先駆者であり、「anan」創刊時には、ロゴ、表紙、ページネーションなどを手がける。海外取材を実施するなど、ヴィジュアル系雑誌の可能性を大きく広げた。『あかずきん』『雪わたり』『くるみわりにんぎょう』など、20代半ばより生涯にわたり60冊を超える絵本を世に出し、挿絵も数多く描く。1942年、病弱だったことを理由に、小学校4年生のほぼ1年間を静岡県東部・沼津市片浜の養護学校で過ごしたこともある。1973年から81年にかけてパリに暮らし、世界を巡り、旅先の風景や地図を描き雑誌で発表するなど、多彩な表現に意欲的に取り組む。1987年逝去。享年54歳。

HIGHLIGHTS みどころ

絵を描きたい その創作の原点

図案家だった父の影響もあり、子どものころから絵を描くことが好きだった堀内。子ども時代に描いたスケッチ、画塾に通いながら日々描いたデッサン、模索を重ねながら取り組んだ油絵などを展示し、絵本作家になる前から、堀内が描くこと、表現することにいかに真剣に向き合っていたかを紹介します。



《青いサーカス一家》

多彩な絵本の世界

1958年、堀内は『くろうまブランキー』（福音館書店）で絵本画家としてデビューします。以来、デザイナーの仕事をしてながら多くの絵本を手がけました。堀内絵本の特徴の一つは、物語に合わせて変幻自在に変化する画風です。本章では、初期から晩年までの絵本を5つの項目に分類しながら堀内誠一の絵本の特徴や変遷を展観します。

1. はじまりの絵本たち

（初期、模索の時代）

『くろうま ブランキー』『七わのからす』
『たろうシリーズ』『おおきくなるの』
『ぐるんぱのようちえん』



『くろうまブランキー』

2. 名作と向き合う

『おやゆびちーちゃん』
『くるみわりにんぎょう』『雪わたり』



『ぐるんぱのようちえん』

3. 好奇心と科学の絵本

1969年創刊・月刊科学絵本シリーズ
「かがくのとも」

現在も数か国語に翻訳されている
ベストセラーも。

『ほね』『ねびえ』『めのはなし』



『雪わたり』

HIGHLIGHTS みどころ

4. 広がる絵本の世界

堀内絵本の魅力のひとつは、その多彩な画風。古今東西、あらゆる文化に好奇心を持ち、そのエッセンスを自分のものにしていく堀内ならではの、遊び心もたっぷりの多様な作品を紹介します。



『てがみのえほん』

『こぶたのまーち』『てがみのえほん』『どうぶつしんぶん』『でてきておひさま』『てんのくぎをうちにいったはりっこ』など

5. パリで生まれた絵本たち

4 1歳の時、堀内は家族とフランスに渡り、約7年間をパリ郊外のアントニーで暮らしました。フランス滞在期間には絵本の仕事にできる限り専念しました。ヨーロッパに触れ、パリの暮らしをソースとして生まれた絵本たちを紹介します。

『こすずめのぼうけん』『きこりとおおかみ』『パンのかけらとちいさなあくま』など

物語を導く 挿絵の世界



『ふらいばんじいさん』

堀内が「挿絵」を手がけた絵本は40冊以上。物語への興味を深めるよう工夫された絵の世界を、代表的な挿絵作品を中心に紹介します。

『人形の家』『ふらいばんじいさん』『グリム童話集』『ロボット・カミイ』『おそうじをおぼえたがらないリスのゲルランゲ』

『マザー・グースのうた』など

堀内誠一の残したもの

an·an

BRUTUS

POPEYE Olive

たぐさんのふしぎ

堀内はいかなるときも「描くこと」を通してイメージを形にしていきました。ロゴマークのデザイン、雑誌のアートディレクション、本の装丁、ポスターのデザイン、ミニコミ誌の編集、友人たちへの絵手紙、旅先で見た町の風景、そして地図。描くことを通して堀内が表したさまざまなものを紹介します。また、その創作の傍らにあった愛用品や画材などもあわせてご紹介します。

イベント、ワークショップ

感染症拡大状況をみながら開催予定。

【広報用画像資料】

広報用にお使いいただける画像をご用意しています。(12点、次ページもご覧ください)
お申込み、お問い合わせについては6ページをご覧ください。

◆クレジット表記は各画像下の内容をご利用ください。

◆画像掲載時に、©Seiichi Horiuchi と表記をお願いいたします。

複数画像を使用する場合はレイアウト内に1箇所にかまいません。



1 《青いサーカス一家》
1950年 油彩・キャンヴァス



2 『くろうまブランキー』
1958年 福音館書店



3 『ぐるんぱのようちえん』
1965年 福音館書店



3-小 『ぐるんぱのようちえん』
1965年 福音館書店
トリミングあり



4 『雪わたり』
1969年 福音館書店



5 『ふらいぱんじいさん』
1969年 あかね書房

【広報用画像資料】

お申込み、お問い合わせについては次ページをご覧ください。

◆クレジット表記は各画像下の内容をご利用ください。

◆画像掲載時に、©Seiichi Horiuchi と表記をお願いいたします。

複数画像を使用する場合はレイアウト内に1箇所でもかまいません。



6 『てがみのえほん』
1972年 福音館書店



7 『かげ』
1970年 福音館書店



8 『パンのかけらとちいさなあくま』
1979年 福音館書店



9 パリ風景《ポン・ヌフ》
1978年 鉛筆・水彩・紙

an·an
BRUTUS
POPEYE Olive
たくさんのふしぎ



10 堀内誠一が手がけた
ロゴデザイン 1970年～

11 堀内誠一
写真提供：堀内事務所



12 堀内誠一 絵の世界展

INQUIRY

【広報用画像資料申し込み用紙】

前ページ掲載の作品について画像資料（デジタルデータのみ）をご用意しています。

ご希望の場合は□にチェック ☒ を入れ、必要事項をご記入の上、FAXにて055-987-5511まで、あるいは必要事項と画像の番号をE-mailにてinfo@buffetmuseum.or.jpまでお申し込みください。

お願い ・クレジット表記は4、5ページの各画像下の情報をご利用ください。

・掲載誌一部をご送付ください／掲載サイトのURLをお知らせ下さい。

・取材にご来館くださる場合は事前に担当者までご一報ください。

貴媒体名

掲載号

発売・公開日等

年

月

日

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail

ご住所

☐ 1 《青いサーカス一家》

☐ 2 『くろうまブランキー』

☐ 3 『ぐるんぱのようちえん』

☐ 3-小 『ぐるんぱのようちえん』（トリミングあり）

☐ 4 『雪わたり』

☐ 5 『ふらいぱんじいさん』

☐ 6 『てがみのえほん』

☐ 7 『かげ』

☐ 8 『パンのかけらとちいさなあくま』

☐ 9 パリ風景《ポン・ヌフ》
1978 鉛筆・水彩・紙

☐ 10 ロゴ文字デザイン

☐ 11 堀内誠一

☐ 12 堀内誠一 絵の世界展

FAX : 055-987-5511 / E-mail : info@buffetmuseum.or.jp

【お問い合わせ】

展覧会担当：雨宮（あまみや）
井島（いしま）
杉崎（すぎざき）

ベルナール・ビュフェ美術館
静岡県駿東郡長泉町東野クレマチスの丘 515-57
TEL 055-986-1300
info@buffetmuseum.or.jp

GENERAL INFORMATION



所在地 〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 515-57 TEL 055-986-1300 FAX 055-987-5511

入館料 大人：1,000円（900円）高・大学生：500円（400円）中学生以下：無料（ ）内は20名様以上の団体割引

休館日 水曜日・木曜日（ただし2022年3月24・31日および5月4・5日は開館します）

開館時間 10:00-17:00 入館は閉館の30分前まで

※「堀内誠一 絵の世界」展会期中は上記となります。2022年度中に限り休館日・開館時間を変更しております。

アクセス 自動車の場合 新東名・長泉沼津 I.C. または東名・沼津 I.C. → 伊豆縦貫道（東駿河湾環状道路）→ 長泉 I.C. 出口 R246を右折／「城山」交差点左折／静岡がんセンター方面へ（新東名長泉沼津 I.C. より約5km）

電車の場合 JR東海道線〔三島駅〕下車 北口／新幹線口・バス3番乗り場発
無料シャトルバス「クレマチスの丘」行き（10:00-17:00 毎時00分発 所要時間25分）

同時開催中

<https://www.clematis-no-oka.co.jp/buffet-museum/>

企画展

線の画家

ベルナール・ビュフェ

その個性的な「線」で語られることの多いベルナール・ビュフェ。ベルナール・ビュフェ美術館収蔵の幅広い年代にわたるビュフェ作品100点超で、画家の生涯をたどりながら、その線の魅力と変遷を見つめます。

2022年3月12日(土) - 2023年3月26日(日)

前期 2022年3月12日(土) - 2023年9月27日(火)・後期 2022年10月1日(土) - 2023年3月26日(日)
(一部展示作品の入れ替えを行います)